

製品名: KCHIP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12923**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	KCNIP1
別名	KCNIP1; KCHIP1; VABP; Kv channel-interacting protein 1; KCHIP1; A-type potassium channel modulatory protein 1; Potassium channel-interacting protein 1; Vesicle APC-binding protein
遺伝子 ID	30820.0
SwissProt ID	Q9NZI2
免疫原	抗血清はヒト KCIP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

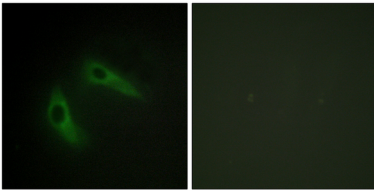
この遺伝子は、カルシウム結合 EF ハンドタンパク質の神経カルシウムセンサー（NCS）ファミリーに属する、細胞質電位依存性カリ

ウム (Kv) チャンネル相互作用タンパク質 (KCNIP) ファミリーのメンバーをコードしています。これらは Kv4 α サブユニットと会合して、ネイティブ Kv4 チャンネル複合体を形成します。コードされているタンパク質は、細胞内カルシウム濃度の変化に応答して、急速に不活性化する (A 型) 電流、ひいては神経膜の興奮性を制御すると考えられます。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013 年 5 月]、機能: Kv4/D (Shal) 型電位依存性急速に不活性化する A 型カリウムチャンネルの調節サブユニット。おそらく、カルシウム依存性かつアイソフォーム特異的な方法で、チャンネル密度、不活性化速度、および不活性化からの回復速度を調節します。In vitro において、KCND1/Kv4.1 および KCND2/Kv4.2 電流を調節する。KCND2 の細胞表面への輸送に関与していると考えられる。類似性: リカバリンファミリーに属する。類似性: 4 つの EF ハンドドメインを含む。サブユニット: ヘテロ多量体カリウムチャンネルの構成要素。KCND3 および KCND2 の N 末端ドメインと相互作用する。おそらく、KCNIP1、KCNIP2 アイソフォーム 3、および KCND2 からなる複合体の一部である。自己会合してホモ二量体およびホモ四量体を形成する。カルシウム依存的に KCNIP2 アイソフォーム 3 と相互作用する。ナジャ・アトラ毒 CTX3 と相互作用する。組織特異性: アイソフォーム 1 およびアイソフォーム 2 は脳および腎臓で発現する。アイソフォーム 1 は肝臓、脾臓、骨格筋、小腸、精巣にも発現しています。アイソフォーム 2 は肺、脾臓、白血球、前立腺、胸腺にも発現しています。

研究分野

-

画像データ



KCIP1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。